

令和5年度 第4学年 授業改善推進プラン

台東区立金曾木小学校

1 児童の状況及び実態を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの漢字の到達率が7割である。言葉の意味を理解した上で正しく漢字を活用することに課題がある。 ・文章表現に苦手意識をもつ児童が3割である。根拠を示して自分の意見を書くことに課題がある。 ・単元テストの説明的文章の到達率が7割である。説明文を読み取ることが課題である。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの知識・技能の到達率が7割である。資料の読み取り、情報を収集することに課題がある。 ・単元テストの思考・判断・表現の到達率が6割である。読み取ったことから考えをもち、表現することに課題がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・発展問題の到達率が6割である。課題を捉えて、解決方法を見通すことに課題がある。 ・単元テスト「角の大きさ」の到達率が7割であることから、図形の意味を理解し正しく作図することに課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題作りの場面で発言者が3割程度と、根拠のある予想や仮説を発想することに課題がある。 ・単元テストの思考・判断・表現の到達率が7割である。自ら問題解決しようとすることに課題がある。

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく読み、書く力。 ・相手や目的を意識して、文章を書く力。 ・段落相互の関係に着目しながら、内容を押さえ、読み取る力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ドリルを活用し、漢字の読み・書き練習を学校と家庭で繰り返し取り組ませる。 ・朝学習の時間を活用し、週に1度を目安に、目的や読み手を明確に意識した文章を書く機会を増やす。 ・説明文を段落ごとに一文でまとめる(要約する)活動をスモールステップで取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に関する情報を調べてまとめる力。 ・考えたことや選択・判断したことをまとめる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や地図帳の資料の読み取りを丁寧に行うとともに、動画やICT機器を活用して、社会的事象を捉えやすくする。 ・考えたことや選択・判断したことについて目的を明確にしてポスターや新聞に表現させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を正しく捉え、立式したり、計算したりして解決する力。 ・自分の考えをもち、説明する力。 ・図形の意味を理解し、作図する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルや学習ソフトを活用して、課題把握から自力解決の過程を繰り返し経験させる。 ・解決の見通しをもたせる過程に時間を割き、図、式等を使って、考えを説明する活動を毎単元に取り入れる。 ・図形単元では、学力向上推進ティーチャーと連携し、苦手な児童を個別に支援する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力。 ・自然の事物・現象に関わろうとしたり、粘り強く問題解決しようとしたりする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団検討をする場を大切にし、複数出ている予想や仮説について選んだり議論させたりする。 ・自然の事物・現象との出会いを大切にする導入、児童の疑問を生かした課題設定、発問の工夫により、児童自身が問題解決をしていると実感できるよう授業展開する。